

GAP通信 第8号

2019年7月11日発行

特集 STOP 販売トラブル！

GAPを制する者は
夏の出荷を制す

平成30年度には

販売トラブルが12件発生

これから気温が高くなり、農産物が傷みやすくなる時期になります。収穫物の保管や、選別に気をつけているにもかかわらず、例年、腐敗果などによる販売トラブルの発生が、問題となっています。

GAP毎月点検シートを活用し

事故対策を徹底する

点検シートには、食品安全の項目が多数あります。点検することで、対策できているか、毎月振り返ることができます。できていない点をどのように改善するか、できている項目をさらに良くすることはできないか、考えることが事故防止の第一歩につながります。

点検時に、収穫物の管理を見直し、改善すること、販売トラブル0件をめざしましょう

↑出荷段ボール内でカラーピーマンが腐敗している

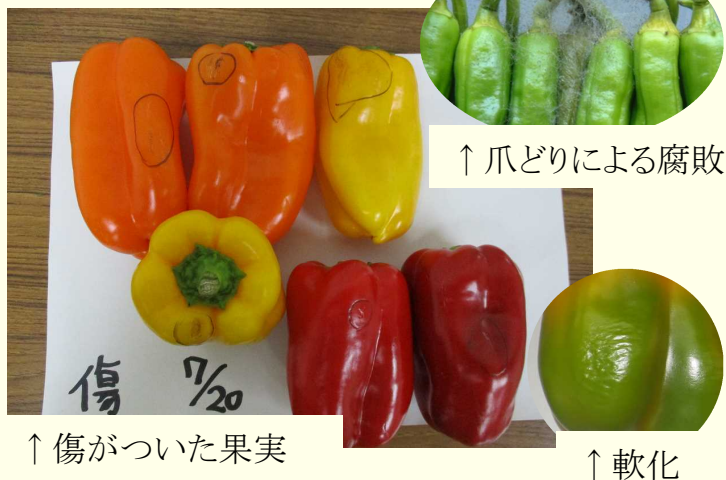


↑シシトウパックに虫が入っている



↑シシトウのヘタが腐敗している

1 傷・軟化



販売トラブルの83%が傷・軟化による腐敗

収穫した果実は劣化させないように速やかに涼しい場所へ移しましょう。果実を扱う際には傷つけないよう丁寧に扱い、注意して選別しましょう。

チェックシートのここを確認

農産物の保管について



選別の徹底
選別時の環境改善



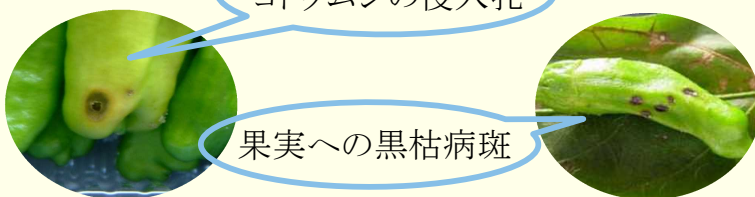
農産物に傷をつけない対策



2 虫の食害・病害

ヨトウムシの侵入孔

果実への黒枯病斑



「発生させない」、「早めに防除」が基本

ほ場付近の雑草を除去する、予防剤を定期的に散布するなど、発生させないことが重要です。それでも発生した場合には、被害が拡大する前に防除し、注意して選別しましょう。

チェックシートのここを確認

選別の徹底
選別時の環境改善



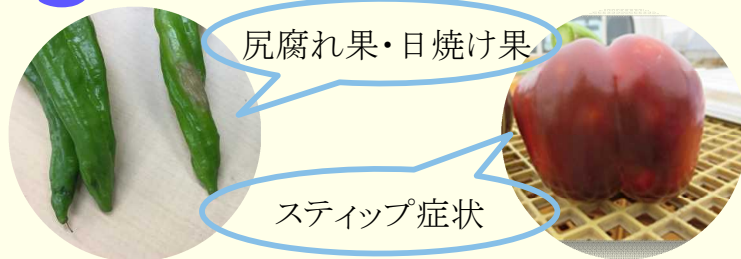
害虫の侵入対策



3 生理障害果

尻腐れ果・日焼け果

スティップ症状



高温、水不足は禁物

ハウスのサイドや妻面を開放し、循環扇を活用することで、温度の上昇を抑えましょう。また、かん水不足は草勢の低下を招き、生理障害果の発生を助長します。かん水回数を増やし、株をしておれさせないように心がけましょう。

チェックシートのここを確認

選別の徹底
選別時の環境改善



手元が暗い場合は電気をスタンドなどで補光する



毎月11日はGAPの日



「腐敗事故0件」という目標は、園芸部として毎年掲げており、8月は腐敗事故防止月間になっています。腐敗事故は産地の信用に関わるだけでなく、一緒に出荷した農産物を廃棄しなければいけません。一人一人の意識を高め、品質の高い青果物を出荷しましょう！

担当からのコメント

7月号の「えい」の情報（れいほく地域より）のコーナーで、腐敗事故の対策と、農薬の使用、異物混入の防止についての記事が掲載されています。安心安全な青果物を出荷するために、記事を読んで、注意事項を再確認しましょう。

J A 広報誌7月号にも事故対策が掲載されています